

ご近所のお医者さん

□
741
□

南港病院理事長 **三木康彰さん** 一大阪市住之江区

「社会的処方」の大切さ

「先生、銭湯に行くのが楽しみです」と私の外来診療室で話してくれたのは、長年うつ気味だった女性です。きっかけは、私が紹介した「お風呂」でした。南港病院(住之江区北加賀屋)の近くにあり、私たちが3年前に継承した築60年

の銭湯「寿榮温泉」は、新でたいた湯に生まれ、地元の人たちが集い合う場所です。銭湯2階の大広間(和室)を開放しており、ピザ焼きや夏祭り、ワインガーデン、演奏会、訪問看護師による「まちかど保健室」や「百歳体

操」など、心を温める催しを行っています。また、南港病院が運営している健康複合施設「ウェルネスラポ」では、地域の健康づくりをサポートしています。系列のグループホーム「つるさんか

人との交流が元気の源

めさんの家」では、優しさを伝える「ユマニチュード」の勉強会や認知症カフェを、特別養護老人ホーム「加賀屋の

らしの全体に関わる法人としての役割を

森」では、ペットと生活できる「アニマルコンパニオン」による癒やしの活動を、「しらなみ」では、施設の大浴場の一般開放をしています。

担い、「地域とともに生きていく」という考え方の下、運営を行ってきました。そして、今年11月には「南港ユマニ

このような「人とのつながり」こそ、心と体を元気にする力となるのです。イギリスでは、医師が患者を地域のボランティア活動や園芸クラブ、音楽会

などへ紹介する「社会的処方(Social Prescribing)」という制度があります。薬ではなく「居場所」や「仲間」を処方することで孤立を防ぎ、人生の喜びを取り戻す医療です。私たちは医療・介護・療育の連携と、さらに暮らしそのものを支える地域関連事業も含めた地域の皆様の「暮らしの



現在、クラウドファンディングで新病院「みんなの庭づくり」への参加者を募集しています。ぜひご協力ください。